

# 福祉用具の普及促進

## 相談員の役割問われる

〔社〕全国福祉用具専門相談員協会(ふくせん)が主催するシンポジウム

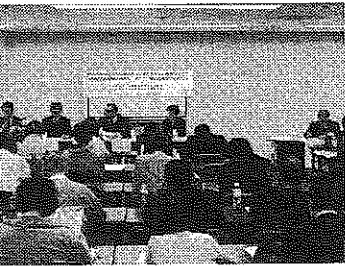
「福祉用具サービス計画ガイドライン」普及に

向けて、計画作成技術の標準化、そして、専門性確保のために、

「福祉用具専門相談員の質の確保」が大きなテーマとなっている。

2015年4月施行の介護保険制度改正では「福祉用具専門相談員の質の確保」が大きなテーマとなっている。

2015年4月施行の介護保険制度改正では「福祉用具専門相談員の質の確保」が大きなテーマとなっている。



▲当日の様子

われた。コーディネーターとして登壇した西野マネジャーは「福祉用具は、利用者ごとに選定及びマッチングさせることが大切だ。しかし、スイングアウト(肘掛が後方に跳ね上がり、ベッドなどに乗り移乗できる)車いす」など専門用語を理解できない利用者も少なくない。噛み砕いてわかりやすく伝えることが今求められる専門性なのではないか」と提起。ふくせんの畔上加代子副理事長は「メーカー、ユーザー、そして専門員はそれぞれ視点が異なる。意識の齟齬を埋めていく努力が必要だ」と今後の課題を指摘した。

「福祉用具サービス計画ガイドライン(仮)」の策定に取り組んでいる。当日はNPO法人東京都介護支援専門員研究協会小島操副理事長、千葉県福祉ふれあいプラザ西野雅信マネジャー、(社)神奈川県作業療法士協会渡邊慎一会長らが登壇し、福祉用具をめぐる現場の実情や課題を議論。コーディネーターを務めた桜美林大学大学院白澤政和教授は「介護保険財政は厳しくなっている。そうした中で、比較的コストがかからない福祉用具の紹介、事例発表が行

「福祉用具サービス計画ガイドライン(仮)」の策定に取り組んでいる。当日はNPO法人東京都介護支援専門員研究協会小島操副理事長、千葉県福祉ふれあいプラザ西野雅信マネジャー、(社)神奈川県作業療法士協会渡邊慎一会長らが登壇し、福祉用具をめぐる現場の実情や課題を議論。コーディネーターを務めた桜美林大学大学院白澤政和教授は「介護保険財政は厳しくなっている。そうした中で、比較的コストがかからない福祉用具の紹介、事例発表が行